

第7回上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 会議録

【日 時】 令和2年2月26日（水）9：30～12：00

【出席者】 委員 9名

【欠席者】 委員 5名

【傍聴人】 2名

【事務局】 5名

1. 開会

- ・ 配付資料確認
- ・ 委員長あいさつ

2. 議題

（1）上牧町人口ビジョン（案）の見直しについて

事務局：＜上牧町人口ビジョン（案）の見直しについて説明＞

安中委員：今後子供の数を増やしていくことが大事だと思う。上牧小学校、上牧第二小学校、上牧第三小学校を比べると、上牧第三小学校はささゆり台など、新しいところにたくさんの方が来ている。上牧第二小学校、上牧第二中学校の区域については下牧に60件の新しい家が建つ予定があり、年々増えている。こういう開発を進めていくことが大事だと思う。河合町でも、政策として若い人を呼び込んでいくという計画があるみたいだが、若い人、子育て世帯を呼び込むということについて、上牧町では何か考えていることはあるのか。

事務局：小規模開発に関しては所々で行われているが、ささゆり台のような大規模な開発がすぐに起きるとするのはなかなか考えにくい。空き家が増えてきている状況であり、空き家をうまく活用することで若い人に入ってきてもらうような施策展開を考えているところ。

安中委員：上牧町で新しいモデルケースになるような場所は今のところはないのか。

事務局：南上牧地区や服部台明星線沿い、それと桜ヶ丘の郵政宿舎の跡地など、今後の利用の仕方はわからないが、例えばそういうところで開発が進み、住宅が建っていく可能性はあると考えている。

東谷委員：この人口ビジョンについては、基準日をいつに設定しているのか。教育関係では4月1日現在で生徒数を把握していることが多いが、人口ビジョンについては、基準日を設けて人数を把握しているかどうか確認したい。

事務局：人口推計シミュレーションに関しては、国勢調査をベースにしており、10月1日で推計値を作っているが、人口目標の達成基準については年度末で捉えている。

服部委員：23ページの合計特殊出生率のところ、令和27年度の2.1を目標にするということで0.2ずつ増加するという設定だが、この根拠はなにか。

事務局 : もともとの人口ビジョンで掲げている 2060 年までに人口 18,000 人維持するという目標については、この 2 年間の延長では変えない基本方針でいくと、目標人口を維持するために必要な条件として、現在設定している出生率を維持していくことと、純移動率を上げていくことが必要となる。前回の委員会で、令和 12 年までに 2.1 まで上昇させないと将来展望人口 18,000 人を維持することが難しいと説明させていただいたが、色々な意見をいただき、少し緩やかな上昇となるように変更している。0.2 ずつ上げていくことについて、具体的にどれぐらいの施策が必要になってくるかについては、この後また議論も出てくると思うが、そうしないと、18,000 人を達成できないということで、今回のシミュレーションは 0.2 ずつ上げていく設定になっている。

服部委員 : 0.2 ずつ上げていく政策は今いくつあるのか。

事務局 : この後、総合戦略の取組内容の最終確認があり、その中で確認いただきたい。

委員長 : 今の純移動率はどれぐらいか。

事務局 : 年代別での把握はできてないが、全体で見ると移動均衡以上の数字となっている。

委員長 : この設定はかなり厳しいということについては認識していただいていると思う。23 ページの仮定 1 と仮定 2 のシミュレーションを比べると 2060 年で 800 人しか変わらない。なぜかという、高齢化が進むので、当分自然減は止まらず、出生率を 0.2 ずつ上げていくことは難しいが、それができたとしても高齢化が進んでいることで、人口は大きく増えず、当分は自然減が続く。2060 年で 18,000 人を維持するためには、純移動率 2% を維持するという事なので、現在 22,000 人ぐらいで、年間 400 人ぐらいの転入超過を維持した結果、仮定 2 のシミュレーションになるということ。転入超過を維持して初めて 18,000 人になるということで、出生率を上げて増えるのは 800 人ぐらい。転入超過を維持していくことで、2060 年の時点で 18,000 人を確保するという計画になる。出生率を上げるためには、子育て環境を整えるなど色々取組みはあるが、転入を増やすということは、人口の奪い合いということになる。そういうことを前提として、18,000 人を確保するという計画になる。若い人がどんどん減っているから、当分自然減は止まらないことから、18,000 人を確保しようと思うと、周りから多くの人口を獲得しなければならないという目標にならざるを得ない。これは競争になるので、簡単ではない。18,000 人確保するために取り組んでいくということで、この目標自身はよいと思うが、目標の達成についてはハードルが高く、将来どういう町にしていくのかについて地元の人も含めて考えていただいて、目標設定していけばいいのではないかなと思う。人口の奪い合いになることも想定できるので、議会や住民のかたと一致団結して取り組まないと、簡単には実現できない目標だと思う。

牧浦委員 : 今さきゆり台には若い世代の人たちが入ってきている。近隣ではこういう地域でアンケート調査を実施しているところもある。転入してきた理由について把

握することで何かヒントが出てくることもあると思う。上牧町でもそういったアンケート調査を実施すれば、ヒントになると思うがどうか。

事務局：今回の2年間の延長に関して、基礎調査はしていないが、2年後、総合計画の後期計画の策定と併せて総合戦略の方も新たに作っていくことになる。その時には調査を行い、ニーズも把握しながら進めていきたいと思っている。

事務局：補足説明として、各政策の中で、アンケートを実施しているものもある。例えば、子ども子育て支援計画の策定については、子どもがいる保護者向けにアンケートを実施している。今後教育委員会や子ども支援課等で、どのような施策を行う必要があるのか、アンケート結果をもとに、分析して事業を実施していくということであって、今回の総合戦略の改訂版の中にもそういったことを踏まえて、学童保育の延長や病児病後児保育の拡充など、少しでも子育て世代の保護者が働きやすくなる施策ということで少しずつ実施している。今後もアンケート調査等でニーズを把握しながら取り組んでいきたいと思っている。

東谷委員：合計特殊出生率について、今1.09で令和27年度以降、2.1に設定して、それを維持していくということで人口ビジョンを作成しているが、この2倍になるというのは、現実的ではない数字だと思う。目標は高いのはいいと思うが、全くかけ離れた出生率が設定されており、上牧町で出生率を上げていくために他の自治体と比べてどのような特殊な施策を考えているのかということになれば、施策の内容を見ていると、全く出てきていないように思うので、絵に描いた餅になってしまうように思う。こういった可能性があって希望は明るいというようなところが、施策の中に謳われてないと思う。上牧町は、面積が6km²しかなく、人口密度はほとんど満杯状態の中で、どのように転入者を呼び込むのか、何らかの形で改善していくための取組みが今までの政策の中に謳われていないように思う。カンフル剤となるような取組みがなければ2倍の2.1というのは、なかなか謳いにくいのかなと思う。その辺、どういう可能性があって、2.1なのか。可能性が全くないものを設定するというのはいかがなものかというところで、もう少し奇抜な政策というのを考えるといいのかなと思う。

事務局：もともと合計特殊出生率2.1の設定というのは、国が総合戦略長期ビジョンを策定したときに行われたアンケートの中で、子どもを2人持ちたいという希望が多く、国はそれを達成するために、働く環境の整備や結婚応援といった政策を展開していく長期ビジョンになっている。このままの推移だと2060年は9,284万人になるが、2040年に出生率2.07まで回復すれば、1億人を維持できる。国も高い目標を掲げて色々な政策を展開してきたが、出生率は、1.43ぐらいで、なかなか目標通りの数値となっていない。国もこの時点では全国的に1.6まで上げるという目標だったが、まだ当初の目標を達成できていない状況である。上牧町も結婚応援等の施策を行っているが、全国的にそういう取組みをしていく、国も地方公共団体もまた企業も含めて、1億総活躍しながら人口増やしていく、経済を活性化させていくという目標で、国は2040年に合計特

殊出生率 2.1 を目指すということで、それに合わせて全国の都道府県、市町村が総合戦略で目標を立てて取り組んでおり、上牧町も同じように目標を設定している。現状、なかなか成果が出ていない状況であるが、住民の方の協力もいただきながら、この目標に向かって取り組んでいきたいと考えているところ。

副委員長：総合戦略は何年後かに見直して、町の計画と併せて実施していくと思うが、最初にやるべきことは、こういう状況を町民の方に伝える、意識を変えてもらって多くの人に町の政策に参加してもらおうとなど、人口減少に合わせた町の在り方について意識を持ってもらうことが大事だと思う。会議で協議するだけでなく、どのように町民のかたに現在の状況を伝えるか、意識の部分にもう少し注目していただければと思う。具体的には講演会を開いて、多くの人に話を聞いてもらうなど、とにかく今の状況を伝えることが大事で、それが初めの一歩だと思う。行政に対して非常に厳しい見方がある中で、こういう状況だということ町民のかたに理解してもらおう取組みをしてほしいと思う。

委員長：上牧町はなぜこんなに出生率が低いのかということで、12 ページに有配合率のグラフが出ている。有配偶率が低いことが出生率を下けている 1 つの要因だとは思いますが、周辺と比べて上牧町では結婚しないというのは考えにくく、そんなに大差があるとは思えない。むしろ有配偶率が低いのは結婚を機に上牧町から転出してしまうことなどが考えられる。他の地域で結婚したが、上牧町に結婚を機に引っ越してくる人が少なく、結果的に結婚していない人が比率としては高くなっているような気がする。上牧町の場合、結婚を促していくというのはもちろん重要だと思うが、それと同時に結婚後も上牧町に住み続けてもらう、他の地域で結婚したが結婚生活を上牧町で送るという人を増やすなどの施策を実施していく必要がある。結婚しても、結果的に転出してしまうと人口を維持していくのは難しい。結婚した人が郊外に住むとなれば、駅の近くのマンションが多い。駅からバス乗り継いでというのはなかなか難しく、昔と違い 2 人とも働いている家庭も多いので、郊外で若い人が増えている所となると駅の近くのマンションやアパートになる。そうでない場合は、駅から少し離れた家に簡単に行けるような移動手段をどう確保できるか、移動手段の確保がかなり重要ではないかという気がする。今回見直しなので、2 年後の次期総合戦略の策定の中で本格的に考えるときでもいいと思うが、その辺を検討する必要がある。なぜ出生率が低いのかというのは今までも議論になってきたので、その辺を今後何らかの形で考えていくというのが重要。もう 1 つ、他の地域から人を呼んでくるということは考えるといいと思うが、ただ、上牧町の今の状況を見ると、今後、たとえ目標が達成しても人口が 1 万 8000 人ぐらいまで減るという予測であり、新たな開発をするというのは現実的ではない気がする。むしろ、今後急速に増える空き地・空き家をどう利活用していくかを考えないと、空き家・空き地が増える中で宅地開発を行っていくと空き地・空き家が増え続けていくことになる。人口がある程度減るという見込みであれば、新たな開発というよ

りも空き地・空き家をどう利活用していくかということが政策上重要ではないかという気がする。

(2) 総合戦略(案)における構成の見直しについて

事務局 : <総合戦略(案)における構成の見直しについて説明>

《特に意見なし》

(3) 総合戦略(案)における取組内容の最終確認について

【基本目標①:若い世代の結婚・出産・子育て・教育の希望を叶える】

事務局 : <基本目標①の取組内容について説明>

安中委員: KPI で出会い・結婚応援事業による年間成婚数で3組とあり、確か3組の実績があり、1組は上牧町に残っているが、2組は上牧町から転出したという話だったと思う。参加者について、女性が上牧町在住でも、男性が他の町在住だと、女性は嫁いでいくことになるので、上牧町の人口増に直接つながらない。イベントの参加条件として男性が上牧町在住としたイベントがあってもいいように思う。

事務局 : 現在募集の中で上牧町在住の方に優先的に参加してもらうような形で事業を実施させていただいていたと思うが、今の意見について、担当課と共有し、内容について確認していただく。

【基本目標②:上牧町への新しい人の流れをつくる】

事務局 : <基本目標②の取組内容について説明>

服部委員: UR 住宅の活用について、上牧町は UR があることで昭和 46 年頃から人口が増えてきた。UR と協力して、壁の塗替えなどの整備で見栄えが良くなれば、入居者の増加も望めると思う。入居者について高齢者が増えている状況なので、若い世代と一緒に暮らせるような UR にできるように、もっと積極的にアプローチしてほしいと思う。

事務局 : UR との協議は何年か前から行っており、実際に居住者の方の高齢化が進んでいるということと人口が減ってきているという事実は UR のかたも認識している。町としては、若い人に空室を利用していただきたいという思いを持って、UR と協議を行っているが、UR 側も入居者が減り、家賃も安い状況で、新たに投資することが難しいということも聞いており、すぐに何か具体的にできることは少ないかもしれないが、今住んでおられる方が暮らしやすい環境というのも維持しつつ、若者もそこに関わっていけるようなリノベーションなど、若者向けのサービスのようものを新たに作れないかとかいうところも引き続き協議を続けていきたいと考えている。

服部委員: UR について、耐震性は大丈夫なのか。

事務局 : 耐震診断は実施済みで、問題ないとお伺いしている。

【基本目標③：地域がつながり、魅力ある安全・安心なまちをつくる】

事務局：＜基本目標③の取組内容について説明＞

副委員長：防犯活動の支援ということで内容は防犯カメラの設置になっているが、これは全て町が管理するのか。

事務局：そのとおり。

副委員長：どこの町でも実施しているのか。

事務局：自治会で防犯カメラを設置しているところもあると思う。

副委員長：防犯活動の支援は新しく設けた項目だったか。

事務局：そのとおり。これまでは防災活動の取組みを政策として位置付けて実施してきたが、安全安心の街ということで防犯面もしっかり取り組んでいくという内容にしたかったということで今回新たに設けている。

副委員長：防犯カメラは計画を立てて設置しているのか。

事務局：総合計画の中にもこの項目があり、今回総合戦略の中でも、同じように位置づけで、計画的に進めていこうと考えている。

副委員長：KPIとして、防犯カメラ設置台数を27台に設定しているのは、どういう考えか。自治会ごとに一つは設置するようなイメージなのか。

事務局：防犯カメラについては、以前から毎年小学校区ごとに1台ずつで合計3台の設置ということで計画しており、令和元年度は当初3台で計画していたが3台増やして6台の設置を進めており、2021年度までに27台設置を目標にしている。各自治会では、100日運動など様々な形で活動していただいております。町でも色々な形で支援させていただきながら、防犯カメラの設置も含めて防犯活動の支援として取り組んでいきたいと考えている。

渡邊委員：防災意識の向上のところで、現在民間でサバイバルキャンプを実施しており、参加者は主に小学生を対象としている。中学生ぐらいまで参加できるような考えはあるのか。中学生は体力もあり頼りになる場面が多いと思う。今サバイバルキャンプでは中学生はオブザーバーでしか参加していないので、その辺を考慮していただきたいというふうに思う。

事務局：サバイバルキャンプは毎年開催されており、実際小学生の参加が多く、サバイバルキャンプを主催している方については、中学生に声かけをしているようだが、なかなか参加してもらうのが難しいと聞いている。中・高校生に参加してもらうことは重要などころにはなってくると思うが、サバイバルキャンプについては町が直接関わっているわけではなく、こういう意見もあったということの主催者に伝えることで、今後実施していく際の参考としていただけるかなと考えている。

渡邊委員：サバイバルキャンプは正式には中学生には募集をかけていない。オブザーバーとして経験者に来てもらっている。

安中委員：次からは公募のときに中・高校生も含むという形で実施すればよいと思う。

【基本目標④：誰もが働きやすい環境をつくる】

事務局　：＜基本目標④の取組内容について説明＞

《特に意見なし》

3. その他

- ・ 本日の配布した資料の中に、上牧町まち・ひと・しごと創生総合戦略平成30年度事業における検証及び改訂に関する提言書があり、本内容をもって委員会からの答申とさせていただきます。
- ・ パブリックコメントについては2月28日から実施する。
- ・ 今回で外部検証委員会を最終回とする。(パブリックコメントの実施による内容の調整は委員長の一任とする。)

4. 閉会

以上